（様式２・中学校用①）

令和３年度　学　校　評　価　報　告

草加市立両新田中学校
（令和４年１月１８日作成）

１　学校教育目標

自ら学び　心豊かに　たくましく

自ら学び（知）　～自分の考えをもつ　正しく判断し行動する　目標を持ち努力する
心豊かに（徳）　～互いのよさや努力を認め合う　態度や行動に示し主体的な実践をする
たくましく（体）　～困難を克服する力やすこやかな体をめざす　規律正しい生活習慣を確立する

２　重点目標・努力目標

（１）学ぶ楽しさを味わわせる授業
（２）自己肯定感を持たせる生徒指導
（３）いじめのない学校
（４）道徳教育の推進
（５）幼保小中を一貫した教育の推進

３　前年度の成果と課題

【成果】
○全校で家庭学習の取り組ませることができた。榛の木帳（家庭学習帳）を使い、家庭学習の定着を図る指導を行った。
○各委員会や部会で、一人ひとりの生徒の実態を共有し、指導・支援に関する策を検討し、対応にあたることができた。

【課題】
●感染症防止対策の制約があったため、生徒が主体となる活動や幼保小中を一貫した教育を進めることができなかった。
●経験が浅い職員が多く、指導力を向上させるための様々な研修の場が少なかった。次年度は授業研究会等を行い、全職員の指導力の底上げ、向上を図る必要がある。

４　評価表 ※評価基準〔Ａ：十分達成している　Ｂ：おおむね達成している　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○校長の学校経営方針を具現化しようと教職員それぞれが職責を果たし、また、職員同士で互いに連携、協力し合い、運営にあたることができた。 ○職員会議等を効率的に運営し、職員全体で共通理解を図ることができた。 ●校務分掌の精選、適正化（過重・定数の加減・職員の経験等）を図る。 ●今年度の各分掌の取組、課題を明確にし、次年度に引き継ぐ。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○教職員の不祥事、事故防止についての研修を計画的に行うことができた。また、内容（学校安全、特別支援教育、働き方改革、保健、ICT等）も充実させることができた。 ●経験の浅い職員が多いため、次年度は、授業力向上を図る。校内授業研究会や、校内授業参観週間などを設定し、互いに授業を見合うことを通して、授業力の底上げと向上を図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭が中心となり、感染症防止対策に努めることができた。 ○毎月全教職員で校内安全点検を行い、迅速に修繕を行うことができた。 ○登校、下校時の安全指導を通して、交通安全や交通マナーを指導できた。また、小中合同引き渡し訓練や下校訓練を計画的に行い、職員、生徒の防災意識を醸成することができた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○タブレットの管理や使用について、情報担当を中心に準備を行い、生徒、教職員共に様々な場面で効果的に活用することができた。 ○個人情報の持ち出しは、持ち出し記録簿に記入する意識を全教職員が持ち、徹底することができた。

	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○各種便り（学校便りや学年便り等）や、学校HPで、学校の教育方針や教育活動の様子を発信することができた。 ○保護者への配信メールを有効に活用し、保護者に様々な情報を発信することができた。 ●学校運営協議会において、地域に学校の情報をさらに発信したり、学校の課題について、解決に向けた意見をいただけるように、さらに有効活用していく。 ●例年実施している様々な学校行事が中止となったが、他の学校の取り組み方の意見を参考にして、工夫した形で行事を行えるようにする。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○合同引渡し訓練や、生徒のあいさつ運動は行うことができたが、例年行っている交流を全て行うことができなかった。中学校区の３校が集まって行う合同研修会はできなかったが、各学校で教科会を開き、課題や一貫して取り組んでいきたいことなどをまとめ、３校で共有することができた。 ●全教科、領域で、令和４年度の年間指導計画や全体計画を作成する際に一貫カリキュラムをより活用していく。

（様式２・中学校用②）

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ　教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	B	○本年度の学校経営方針を踏まえ、それぞれの教職員が学校教育目標の実現に向けて教育活動に取り組むことができた。 ○９月のオンライン学習の関係で、授業時数が減ったが、時数を調整したり、職員間で授業を交換し合い、各教科例年通りに授業を終えることができた。 ○定期テスト前の学習会や、希望者への補充学習を行うことができた。 ●学校評価（保護者アンケート）の結果から、学校行事等が縮小したため、学校の様子が分からないという声があった。次年度は、行事をできるだけ工夫をしながら行っていきたい。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○授業数は減ってしまったが、時数を調整したことで、指導計画に沿った授業をすることができた。 ○授業でICT機器を有効に活用する場面や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践することができた。 ○定期的に教科会を開き、進捗状況や指導法、課題等を共有しあい、授業に生かすことができた。 ●新学習指導要領の全面実施及び３観点による評価となったので、全教職員が評価の仕方について、再度、理解を深める必要がある。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○年度当初に学年道徳やローテーション道徳、及び道徳の評価について研修を実施し、学校全体で道徳教育の充実を図ることができた。 ○道徳の授業の抜本的改善事業において、外部指導者の方からの指導を頂き、指導方法の工夫や評価について学ぶことができた。 ●指導と評価のあり方については、継続して研究する必要がある。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	B	○生徒が主体となる様々な活動を行い、リーダーの育成、自己有用感の向上、自治意識の醸成を図ることができた。 ●生徒の自主性を重んじ、行事を行うとともに、思考力・判断力・表現力を高めるために生徒自身が課題解決をできるよう多くの場を設定していく。 ●今年度は感染症防止策のために、生徒が主体となる活動を縮小せざるをえない場面もあった。次年度以降も感染防止策を徹底し、生徒主体となるよう工夫した形で活躍できる場面を設定していく。

⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○感染症防止のために、年度初めの計画が変更となることが多かったが、学年ごとに工夫し、内容も充実させることができた。 ●課題を設定し、解決できる生徒の育成をめざすために、さらに年間計画・指導計画の見直しと改変を図っていく。
⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○委員会や部会（生徒指導、教育相談　等）において、情報を共有し合い、必要となる指導や支援について策を検討し、共通理解、共通指導を徹底し、組織的に対応することができた。 ○いじめ防止対策委員会では、いじめに特化した話し合いを行い、迅速に対応することができた。 ●日常的な観察に加えて、二者面談や三者面談、家庭訪問を活用し、一人ひとりの生徒理解に努める。特に、教育相談的な指導を必要とする生徒に対する支援をさらに充実させ、不登校生徒の対応を更に工夫していく。
⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○進路だよりが定期的に発行され、３学年だけでなく全学年で学級活動でも活用することができた。 ○各学年で、例年通りの教育活動を行うことができなかったが、調査や情報収集等を充実させるなど工夫をして、できる限りの実践をした。 ●１年生の社会体験学習、２年生の高校教諭による出前授業を行うことができなかったので、次年度は実施方法を工夫して、行えるようにしたい。
⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	B	○校内研修会を通して、一人ひとりの生徒理解や、特別支援教育（合理的配慮やノーマライゼーション等）について理解を深めることができた。 ○生徒・保護者の一人ひとりの願いや思いを大切にした支援について、更に進めていきたい。 ●生徒同士の交流の機会をより持つことが必要である。
⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○学校全体で週２回の読書の時間を行ったことで、生徒は読書への意欲を高めることができた。 ○司書教諭、学校司書、図書委員による図書室の整備や掲示物などで、図書室の利用環境を整えることができた。
⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○年度初めに、情報担当がICT機器の整備を行ったので、機器の使用や管理についてスムーズに行うことができた。また、授業の中で積極的に活用している場面が増えた。 ●教員の情報リテラシーに差があり、研修を進め、充実した指導につなげる必要がある。 ●生徒がタブレットを使用する際の情報モラルについて、指導を教科する必要がある。
⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○人権作文や人権標語などの作成に取り組み、生徒の人権感覚の育成を図った。 ○道徳の授業や、人権に関する内容を校内で放送するなど、人権について触れる機会を設けることができた。 ●教職員への研修を充実させ、授業を始めとする様々な教育活動の場で人権教育を充実させる。特にSNSについて、責任ある発信や他者を思いやる心、人間関係作りについて積極的に取り組み、人権感覚を育成をしていく。

（様式２・中学校用③）

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力の向上	定期開催の学力向上部会において、学力向上についての取組を検討している。	B	○学校全体で「両新田中学校学習の手引き」を活用して、学習の仕方を指導したり、「榛の木帳（家庭学習ノート）」を配布し、家庭学習を習慣化させることができた。 ●家庭学習の習慣が定着していない生徒への指導を工夫していく必要がある。
	ボランティア活動	年度の始めに、ボランティアを募集し、学校だよりを地域に配達している。また、毎学期のはじめに、校内の緑化活動を行っている。	B	○校内緑化活動については、感染防止策を図りながら行うことができた。 ●学校だよりの配達については、感染防止策のため、今年度は郵送とした。
	両中スマホルール	校区の小学校と連携して、独自のスマホの使用ルールを設定して、一貫した指導を行っている。	B	○校区の小中学校で、一貫した指導をすることができたので、次年度に向けて内容の精選を行っていく。 ●今後は生徒、教職員だけではなく、保護者にも内容を発信していく必要がある。

5　総合評価（学校関係者評価を含む）

・保護者の学校評価アンケート結果から、学校教育目標に関する『自ら学び　心豊かに　たくましく』についての３項目については、約８５％の達成度であり、多くの保護者から高い評価を得ることができた。学校全体で学校教育目標を共通理解し、指導に当たることができたことが分かる。また、アンケート項目の「子どもの悩みや問題について適切に対応してくれている」は８６％、「一人一人の生徒を大切にしている」は８７％と、高い評価を得ることができた。生徒に寄り添い、理解し、生徒一人ひとりにあった指導・支援を学校全体で行うことができた。

・保護者アンケートの「学校は子どもに学力をつけている」の達成度は６６．４％という結果であり、８０％を達成することはできなかった。よって、学校全体で生徒の学力向上により取り組んでいく必要があり、現在行っている取組（両新田中学校学習の手引きを活用した学習の仕方の指導）や榛の木帳の活用（家庭学習の定着）を継続させることはもちろんであるが、校内で研修会等を実施し、教職員の授業力の向上を図っていく。

・今年度は感染症拡大防止策を図りながら教育活動を行ってきた。保護者アンケートの「学校は感染症対策をおこなっている」の結果も９５．５％の達成度を得ることができた。そのような中、今年度は全てのアンケート項目の達成度の平均は約８１．１％（昨年度は７８．３％）であった。よって、全教職員が学校教育目標・基本方針・重点目標を意識し、職務を遂行した成果である。今回の学校評価を次年度の教育活動につなげていきたい。

6　次年度の改善策

○生徒の基礎学力の定着と学力の向上に向けた取り組みの実践
- 現在の取組を継続させるとともに、教職員の授業力の向上を図る。
- 学力・学習状況調査（全国・県・市）結果を分析し、一人ひとりの生徒の達成度の把握と教職員の指導法の改善を図る。
- 次年度に向けて、全教科、領域の年間計画・全体計画等の見直し、作成を行う。
- 「主体的で対話的な深い学び」の視点を持った授業や ICT 機器を有効活用した授業を実践する。

○一人ひとりの生徒を大切にした指導、支援
- 生徒一人ひとりに寄り添いながら、家庭と連携し、丁寧に指導、支援を行う。
- 生徒理解を第一に、生徒の成長を実感できる教育を実践する。
- 生徒が主体性を発揮できるよう、学校行事の質の充実を図る。
- 各委員や部会（生徒指導、教育相談、いじめ防止対策）を有効に活用し、いじめ、不登校生徒の解消に向けた支援を積極的、に進めていく。

○両新田中学校区内の幼保小学校等との連携を更に強化した０歳から１５歳の学びを意識した教育活動の実施
- １５年間を見通した教育課程を編成、実施する。
- 中学校区の幼保小中すべての教員が共通した指導観、「めざす子ども像」の共有と接続のあるカリキュラムの編成をする。
- 幼保小中一貫教育をさらに推進しながら、校区の課題である「基礎学力の向上」と「自己肯定感の育成」を、ＩＣＴ環境を整備し、効果的な方法を検討していく。

○その他
- 日々の授業・生徒会活動・特別活動などで生徒主体の活動を増やし、自主性や積極性、表現力を育成する。そのために教職員同士で課題とその手立ての共有を図る。
- 感染症防止策を講じながら、教育活動を工夫して行う。